陸別町

保科　あずさ

1　概要

1.1　地名の由来

アイヌ語の「リクンペッ」(rikun pet)からきており、高く上がっていく川、又は危ない高い川という意味。

1.2　環境

陸別町は、総面積の 8 割が森林で占められていて、中心市街地や集落部は、利別川へ斗満川・陸別川が合流する平地部に形成されている。恵まれた自然環境との調和を図りつつ、美しく個性に富んだ景観・安全で利便性が確保された街づくりをすすめ、快適で潤いと活気に満ちた生活を目指している。

陸別の豊かな美しい自然環境を守り後世に残すため、町民の理解と協力を得て、治山・治水事業を積極的に推進し、災害に強い町づくりを目指している。

さらに、高齢化の進展や核家族化の進展など、社会情勢の変化に即した消防防災体勢・機能の充実強化が急務となり、福祉防災体勢の装備の拡充とともに、町民に対する防災思想の徹底が図られ、救急・救助体制の整備が進められている。

陸別の道路網は、国道 242 号線が町の中央部を南北に縦走し、他に道道 5 路線、集落間を結ぶ町道 193 路線が幹線道となっている。観光イベントなどに伴う交通量の増加に対応する主要幹線の整備や、分散した集落部と市街地とを結ぶ生活基盤道路、農林業の生産を高めるための生産基盤道路の整備が進められている。交通安全施設の拡充も計画的に進め、自然環境と安全で快適な交通社会の調和を目指している。このような自然豊かな陸別町を代表する鳥、花、木はそれぞれ郭公、福寿草、白樺である。

画像 1　町鳥「郭公」

出所：藤波レポート

画像 2　町花「福寿草」

出所：flickr

画像 3　町木「白樺」

出所：森林・林業学習館

1.3　歴史

表 1　陸別町の歴史

1901 年（明治 34 年）	斗満に関又一が入植する。
1902 年（明治 35 年）	斗満に関寛斎（関又一の父）が入植する。
1919 年（大正 8 年）	陸別外 1 村戸長役場が設置される。
1923 年（大正 12 年）	二級町村制が施行され、陸別村（りくんべつ）となる。釧路国支庁管轄。
1948 年（昭和 23 年）	釧路国支庁から十勝支庁に編入。
1949 年（昭和 24 年）	陸別村に改称。
1951 年（昭和 26 年）	西足寄町（現足寄町）の一部を編入。
1953 年（昭和 28 年）	町制施行、陸別町となる。

出所：Wikipedia より著者作成

町が開かれて 90 年

1902 年、72 歳の関寛斎は斗満原野の開拓を志す。1901 年、寛斎は、4 男である又一が 7 月札幌農学校卒業と同時に、陸別開拓の基本方針を固め、又一を斗満に入植させていたが、この 1902 年こそ、陸別開拓の第一歩として記念すべき年である。寛斎夫婦は、この年、結婚 50 年の金婚式を四国徳島で挙げ、老躯をもって、北海道十勝国斗満原野開拓を志し、徳島を旅立ったのである。寛斎は、その頃の心境を「世の中をわたりくらべて今ぞ知る阿波の鳴門は波風ぞなき」と、歌に残している。

寛斎は牛 7 頭・馬 52 頭をもって、1ha の開墾を行った。その地を関農場とし、片山八重蔵を管理人として迎えたのだが、息子・又一が騎馬隊入営のため、関親子は再び離ればなれとなってしまった。

斗満原野の開拓は進まなかった。農産物のそば・馬鈴薯・大根などの収穫は霜害のためほとんど無く、徳島時代に備えていたいくばくかの資本も使い果たしていた。

このような言語を絶する苦難の年がどれほど続いたのだろう。兎やねずみ・熊の被害、酷寒・風雪と戦いながら、陸別の開拓は始められたのである。1912 年 10 月 15 日、寛斎は自らの夢を又一に託して、斗満の地に果てた。陸別に道らしい道ができたのも、国有鉄道網走線が開通となったのも、寛斎の入植後の話である。交通の発達は、陸別にも入植戸数の増加をもたらし、開拓はすすめられていった。

寛斎の死は、不幸な兆候の始まりだった。大通りの 16 戸全焼という大火災に始まり、大凶作。人々の不安と苦悩は、その後の相次ぐ神社や寺院の創設によって知ることができる。しかし、人々はあきらめることなく、農場づくり、子供達の教育、青年会の組織、さらには文芸雑誌“交友”“北潮”の発刊など、酷寒の地にも豊かさを見い出していった。

そして 1919 年、足寄外 3 村戸長役場から分離して陸別村が誕生した。寛翁没後 8 年のことであった。

2　地理・気候

2.1　地理

北海道十勝総合振興局管内の足寄郡にある町。北海道東部のほぼ中央に位置し、女満別、釧路、帯広の各空港からもほど近く、道東の各観光地へ至る道路網も整備され、移動はスムーズ。十勝川温泉、温根湯、美幌峠、摩周湖の各観光地と、阿寒・大雪の国立公園への観光ルートもほど近く、道東観光の拠点としては最適な地にある。隣接している自治体は、足寄郡足寄町、常呂郡の置戸町や訓子府町、網走郡津別町である。

図１　北海道地図

出所：Wikipedia

図２　北海道十勝総合振興局拡大図

出所：Wikipedia

2.2　気候

周りを山に囲まれた盆地のため寒暖の差が非常に激しく、真夏でも 30℃を越えることがさほど多くない北海道の中では珍しく 30℃越えもあり、反面真冬は－30℃以下になることもある。かつては「70 度の温度差のある町」という表現をすることもあった。

1 月の平均最低気温－20.2℃と平均気温－11.4℃は日本全国のアメダス（富士山を除く）では最も低く、「日本一寒い町・陸別」が観光の目玉となっている。アメダス移行以前では、陸別地域気象観測所で 1977（昭和 52 年）2 月 1 日に－35.5℃が観測されているが、小利別駅では 1978 年（昭和 53 年）2 月 17 日にさらに低い－38.0℃の記録がある。

近年では、陸別町が陸別しばれ技術開発研究所を設置し、下陸別と関の 2 地点で独自観測も行っており、2000 年（平成 12 年）1 月 27 日にアメダスで 33.2℃が観測された日

画像 4　陸別町キャラクター「しばれくん」

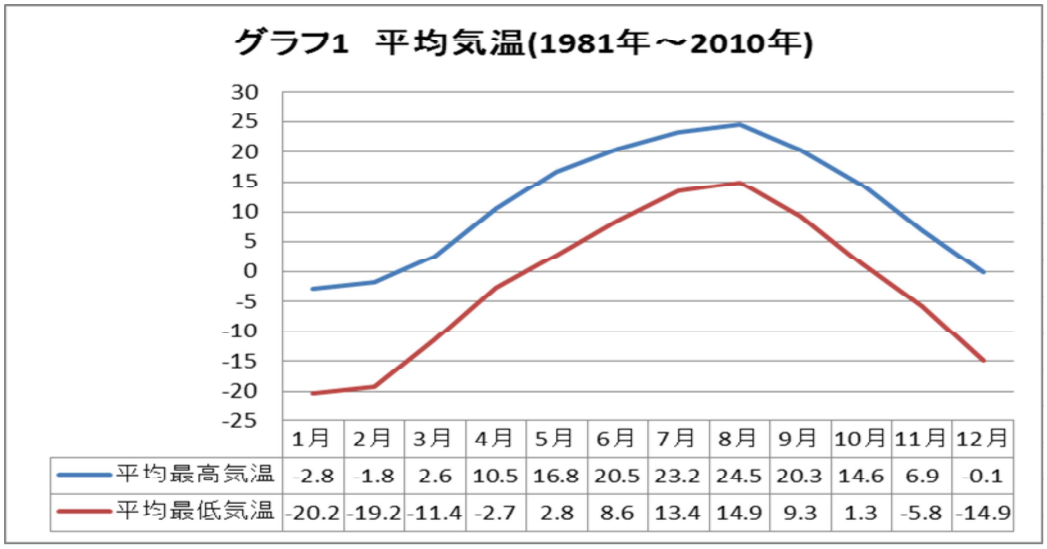
出所：足寄旅行記 HP

画像 5　陸別町で観測されたオーロラ

出所：塩川和夫 HP

には、下陸別で－37.3℃、関では－40℃を下回り計測不能となっている。このように、陸別町では寒さ日本一ランキングを集計するなどして、積極的に寒さを観光資源にしている。

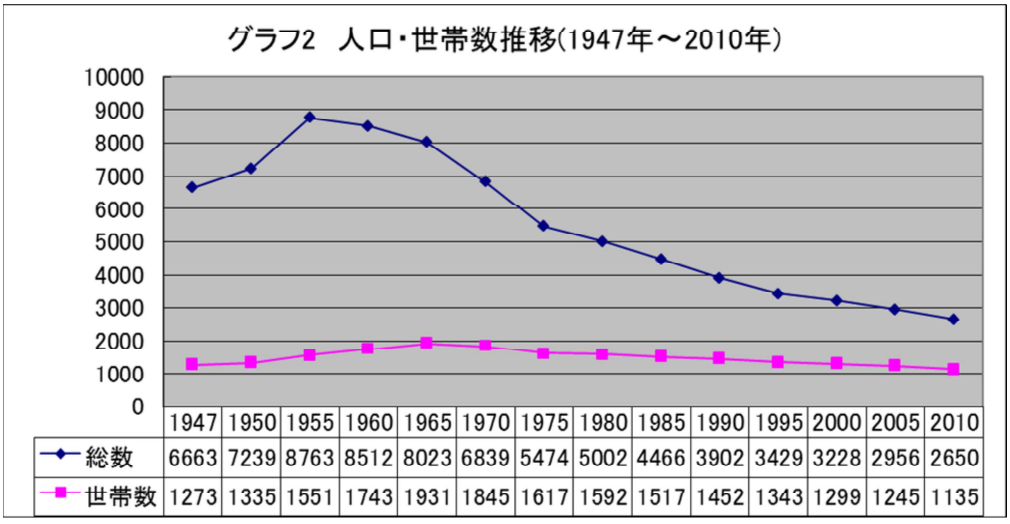
冬季は稀にオーロラが観測されることがある。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均最高気温	2.8	1.8	2.6	10.5	16.8	20.5	23.2	24.5	20.3	14.6	6.9	0.1
平均最低気温	-20.2	-19.2	-11.4	-2.7	2.8	8.6	13.4	14.9	9.3	1.3	-5.8	-14.9

出所：Wikipedia より著者作成

3　人口世帯数推移



	1947	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010
総数	6663	7239	8763	8512	8023	6839	5474	5002	4466	3902	3429	3228	2956	2650
世帯数	1273	1335	1551	1743	1931	1845	1617	1592	1517	1452	1343	1299	1245	1135

出所：過去の国勢調査結果より著者作成

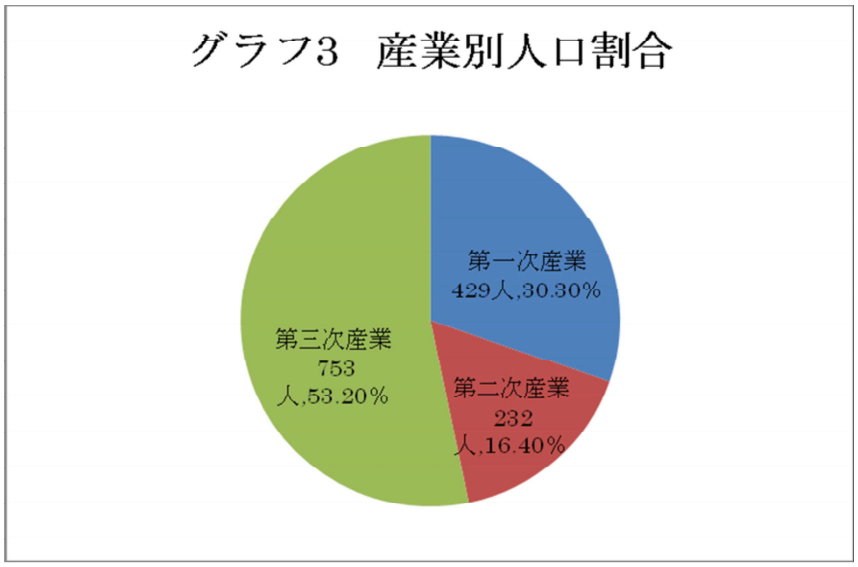
陸別町の人口の総数は 1955 年に 8763 と最大となり、その後は年々低下している。世帯数はほぼ変化せず安定しているが、1965 年に 1931 と最大になり、その後は年々緩やかに低下している。このように人口の減少が続く対策として、移住促進住宅を整備するという考えも生まれ、短期移住など宿泊体験のできるモデル住宅を建設する予定もたっている。

4　産業

4.1　産業別人口割合

第一次産業が 1414 人中 429 人で 30%、第二次産業が 1414 人中 232 人で 17%、第三次産業が 1414 人中 753 人で 53%を占める。

林業や酪農などの第一次産業が、陸別町の基幹産業として町の経済を支えている。



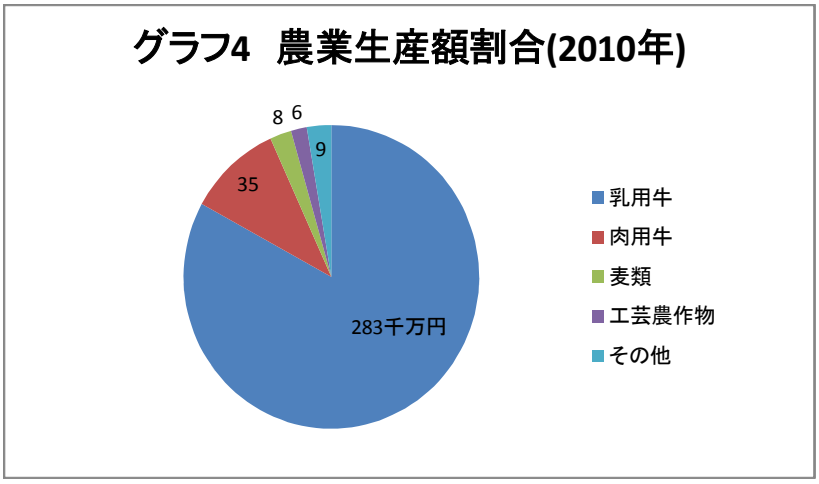
出所：陸別町公式 HP より著者作成

4.2　農業

陸別町は町の面積の約 8 割が山林で、約 1 割の 6,718ha が耕地である。乳牛の頭数は、約 7,540 頭（成牛：約 4,510 頭、育成牛：約 3,030 頭）肉用牛約 1,440 頭、馬約 350 頭であり、人口の倍以上の家畜数だ。

ほとんどが酪農経営だが、昼夜の気温差など陸別の気候を利用した陸別の気候をいかした小麦、ビート、じゃがいも栽培などの畑作も行われている。さらに生乳・野菜類の加工など付加価値づくりの推進、堆肥の有効活用、遊休農地への民間農業資本・新規就農者の誘導がすすめられている。1996 年（平成 8 年）4 月には陸別町農畜産物加工研修センターがオープンし、地元でとれる農作物を利用した加工製品づくりが行われている。

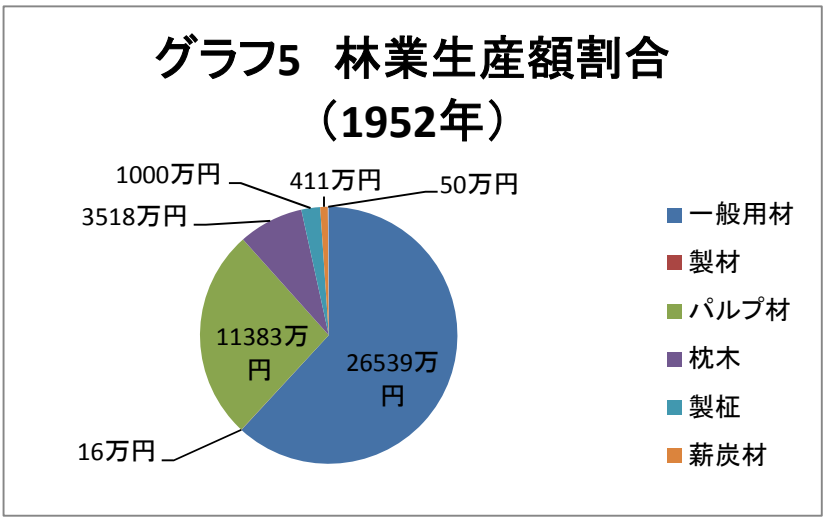
近年はアスパラの栽培にも力を入れており、毎年 6 月から 9 月にかけての収穫時期には、全国各地へ「陸別アスパラ」として出荷されている。



出所：農林水産省「わがマチ・わがムラ」より著者作成

4.3　林業

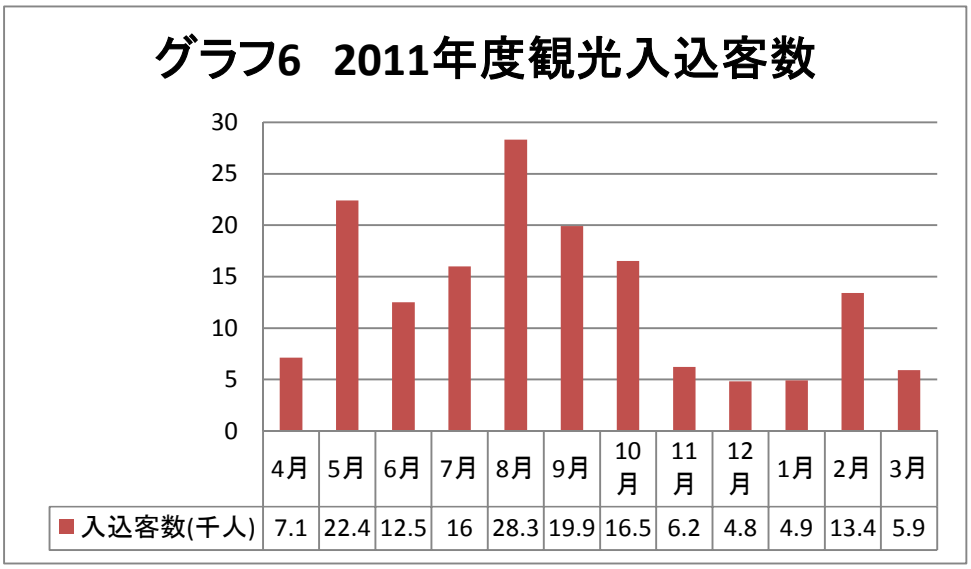
林業は、昔から陸別の主要な産業である。陸別周辺の豊かな森林は、製材として木材加工や新用途の開発、特用林産資源の有効活用はもとより、森林の有する保有機能に注目し、森林空間と調和した公園・レクリエーション施設利用への有効利用もすすめている。また、森林資源である山菜（ウド・ワラビ・フキ・ギョウジャニンニク・キノコ）も特産品として人気を集めている。グラフ 5 は 1952 年とかなり古いデータであるが、一般用材の割合が多いことから材木としての利用が中心であることが読み取れる。



出所：陸別町史 HP より著者作成

5　観光

5.1　観光入込客数



出所：観光入込客数調査報告書より著者作成

最も入込数が多い月は 8 月で 28.3 人となっている。これは有名な「銀河の森天文台」に夏休みを利用して星を見に来る人々や「かぶとの里」にカブト虫を観察・採集・購入する人々多いからだと考えられる。また次に多い 5 月には、サーキットやパークゴルフが行われていることも入込数が多い理由の一つだと考えられる。

画像 6　ふるさと銀河線鉄道

出所：陸別商工会 HP

5.2　観光名所

5.2.1　ふるさと銀河線りくべつ鉄道

2006 年 4 月 21 日、1910 年国鉄網走本線開通（池田陸別間）から 95 年間走り続けてきた「ふるさと銀河線」が廃止された。その 2 年後の 2008 年 4 月 20 日、今度は観光鉄道として「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」に生まれ変わった。陸別駅構内では、銀河線で活躍した列車の「乗車体験」や実際に運転できる「運転体験」、足こぎ式の「トロッコ」に乗ることもできる。

5.2.2　銀河の森天文台

陸別町は、環境庁(現：環境省)より 1987 年度に「星空の街」に選定され、1997 年度には「星空にやさしい街 10 選」に認定された。この自然環境豊かな特性を活かし「りくべつ宇宙地球科学館（愛称：銀河の森天文台)」を建設した。

天文台は一般公開型天文台としては日本最大級の 115cm 反射望遠鏡をはじめ、30cm クラスの小型望遠鏡 4 基、4 連太陽望遠鏡等を備える公開天文台だ。

1 階展示室では、銀河の森、オーロラ、宇宙の美しいパネル展示、宇宙探検コンピューターや 70 インチ大型モニターによる宇宙の体験学習ができる。2 階は大型望遠鏡ドーム、小型望遠鏡観測室、大勢の人が星空を楽しめる屋上広場となっている。

また、2 階総合観測室には、名古屋大学太陽地球環境研究所の「陸別観測所」と国立環境研究所の「陸別成層圏総合観測室」が併設されており、主に成層圏・対流圏の大気やオーロラ等の研究を行っている。テキスト天文台では大型望遠鏡「りくり」でその時期見頃の惑星や月、更に遥か彼方の星雲や星団、銀河などさまざまな天体を見ることができる。また、昼間でも晴れていれば明るい恒星を見ることができる。

画像 8　銀河の森天文台

出所：銀河の森天文台 HP

5.2.3　しばれフェスティバル

しばれフェスティバルとは日本一寒い陸別町で開催される日本最寒の祭。年を追うごとに知名度が上がり全国各地からここに住む人の何倍もの人々が参加するイベントに成長し

た。しばれフェスティバルはさっぽろ雪まつりと同じ 2 月第 1 土曜日・日曜の 2 日間(2012 年の開催は 2 月 4 日～5 日)にわたって開催される。

年間を通じて一番冷え込むこの時期は連日-20℃を下回る極寒の世界だ。寒さが空気を澄まし、星空が一段と輝きを増して祭にロマンチックな彩りを添える。あたりが夕闇に包まれると長くて寒い 2 日間の始まりである。

寒さを楽しむ多くのイベントがあり、中でも『人間耐寒テスト』は日本一の寒さを一晩耐え抜く過酷なイベントだが、全国各地から多くの参加者が挑戦している。

会場へ続く沿道の両側にはアイスキャンドルが並ぶ。その光に誘われて氷のトンネルを抜けると闇の中にライトアップされた輝く氷のオブジェが来客者を迎える。会場中央には巨大なファイヤー『命の火』がともされ来場者を暖める。どこを見ても雪と氷の世界だ。

非日常的な寒さと幻想的な雰囲気に包まれる祭。それがしばれフェスティバルなのである。

表 2　陸別町名産品

	1．山菜 陸別町は夏冬の寒暖差が 70℃以上もあり、大自然の中には豊富な山菜が自生している。行者ニンニクをはじめうど、ふき、こごみなど種類も豊富で食べやすく調理されているのでお土産に最適。
	2．人参発泡酒 β 惚れ 日中の寒暖差が大きい陸別町で育った人参”ピチピチ娘”を使って発泡酒で人参のほんのり甘い風味がよく出ている。β カロテンが豊富で飲むだけで健康に良い一品。
	3．豚丼 道内産の程よい厚みのロース肉に創業より足して継がれてきた自家製のタレが絶品で価格も安くて大満足。
	4．塩ラーメン 喫茶&軽食のお店にも関わらずお客さんの 8 割はこれを頼むと言う地元では古くから愛され続けている逸品。あっさりとした深みのある味に誰もが納得。

出所：北海道市町村観光・温泉大辞典 HP より著者作成

参考文献

・Wikipedia：http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%99%B8%E5%88%A5%E7%94%BA
・銀河の森天文台 HP：http://www.town.rikubetsu.hokkaido.jp/galaxy/info.php
・農林水産省「わがマチ・わがムラ」：
http://www.machimura.maff.go.jp/machi/contents/01/648/index.html
・北海道市町村観光・温泉大辞典 HP：
http://www.tysjazz.com/hokkaidoguide/mpage173.html
・北海道庁「過去の国勢調査結果」：http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/001ppc/co.htm
・北海道庁「観光入込客数調査報告書」：
http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/301-irikomi/irikomitop.htm
・陸別町公式 HP：
http://www.town.rikubetsu.hokkaido.jp/live/administration/statistics/statistics_industry.php
・陸別町史 HP：
http://www.tokachi.pref.hokkaido.jp/d-archive/sityousonsi/rikubethu_sonotanosangyou.html
・陸別町商工会 HP：http://www.shibare.or.jp/category/kanko/
・りくべつ FARMSSQUARE：http://www.rikubetsu.jp/no-gyo/etc/gaiyou.html